

わたしのふるさと再発見

野田の空をグライダーとともに



大空を舞うグライダー「このとり号」(平成25年8月上河聡氏撮影)

NPO法人関宿滑空場前会長

佐藤 一郎さん

関宿滑空場は、(財)日本航空協会が昭和45(1970)年に平井地先の江戸川河川敷に開設した日本で唯一の公共用グライダー滑空場です。航空スポーツのメッカともいえる関宿滑空場の開設時から昨年5月にNPO法人関宿滑空場会長を退任するまで45年以上にわたり、ともに歩んできた佐藤一郎さんにお話を伺いました。



航空スポーツとの 出会い

「航空スポーツへの道に入ったきっかけは、小学校6年生の頃、学校の近くに住む当時の科学小説家、北村小松先輩が授業中に校庭で模型(Uコン)飛行機を飛ばしていたのを見たことですね」と話す佐藤さん。たまらず帰り道に北村さんの家を訪ね、模型飛行機を教えて欲しいと頼み込んだそうです。高校2年の時に模型飛行機の全国大会で日本一にな

ると、その頃から実際に空を飛びたいと思い始め、大学1年でグライダーのパイロット資格を取得し、学生航空連盟の委員長も務めました。卒業後はグライダーのメーカーで10年ほど設計や試験飛行に携わった後、昭和42(1967)年に(財)日本航空協会に籍を置きました。

関宿滑空場の開設

同協会では、当時、公共用のグライダー滑空場を都心から近い場所に